

「折り紙研修」

2020年7月14日（火）実施 JGA 第一支部研修報告

7月14日（火）、お茶の水おりがみ会館にて、「折り紙研修」が開催されました。コロナ禍で本年度初の実地研修で、人数を大幅に制限して（会員10名、非会員2名、委員2名）、窓を開けながらの研修となりました。

10時からおりがみ会館館長で国際おりがみ協会理事長でいらっしゃる小林一夫先生の講義を伺い、先生の話術とマジシャンのように次々と折られる作品に目を奪われ、参加者はたちまちのめりこみました。自分で選んだ絵柄の大きな和紙を使ってのカードケース作成は、通常の折り紙での鶴の練習とは全く違うダイナミックなもので、10年も使える作品ができ上がりました。参加者は皆様大変熱心で、1時間の予定の講義も質問で15分ほど延長されるほどでした。



その後の染紙工房の見学でも職人の方にたくさんの質問をし、染色の特別な道具や特別な和紙を見せて頂くことができました。さらにショップでも小林先生が再び折り紙の折るところを見せてくださり、一同魔法にかけられたように見入ってしまいました。そして、今後ツアーの時にお客様をお連れすることを想定しながら、ショップの和紙を手に取り、ギャラリーも見学しました。

約2時間で折り紙会館は終了、オプションの神田明神見学にも全員が参加、最後に参道の江戸時代からのお店を確認し、終了いたしました。

今仕事がない中で、現場のわくわく感を思いだそう、感じよう、というのが本企画の目標でしたが、みなさんと一緒に話を聞き、お話をし、歩き、その思いを達成できたのでは、と思います。

